

## 紙つて

イタリアの町にはそれぞれの色がある。たとえば、中部トスカーナ州の町シエナは落ち着いた茶色。州都フィレンツェは赤レンガ色。エミリア・ロマーニャ州の州都ボローニャは重厚な赤茶色。ネット上のマップだけでなく、ドローンによる空撮で全景のイメージがつかめる。

市壁に囲まれたこれらの町の佇まいは、中世に自治都市として成立した頃からさほど変わっていない。十三世紀半ば頃には市を美しくするため整備に乗り出し、その後も塔の高さや舗装の種類、建物の壁面線などを都市計画によって規定した。

町の中心部にはドゥオーモ（大聖堂）、市庁舎、そして全市民が集まれる

### イタリアの町の色

武田 好

るだけの広さを持つ広場が整えられた。精神的支柱と政治の中心、人々の情報交換の場所という二点セットだ。現在も町がにぎわう理由はここにある。その歴史的市街地（チェントロ・ストリコ＝centro storico）は、歴史地区、旧市街とも呼ばれている。

教会の鐘が鳴る。都市に住む人々は鐘楼（カンパニレ）を見上げ、その音は人々に時を告げ、危急を知らせた。そうやって町を守り、運命共同体として生きてきた。イタリア語で愛郷心や郷土愛のことをカンパニリスモと言う。語源は鐘である。二十四色入りの水彩絵の具にバート・シエナという色がある。この絵の具を使ってシエナの町をスケッチしてみたい。

（静岡文化芸術大教授）

2020.5.16

2020.5.16

中日新聞（夕刊）P.1